

防災クイズ！ 地震が起きた時の行動編 <<解説>>

第1問 答えは、**㊸ガソリンスタンド**です。

ガソリンスタンドは消防法や建築基準法において厳しく制限されていて、地下のガソリンタンクはたとえ地表面に炎が広がっても引火しないように、厚いコンクリートに覆われています。また建物も一般住宅よりはるかに強度の高い構造になっています。またガソリンスタンドの周囲は高い耐火性のある壁が義務づけられていますので、逃げ込む場所がなければ、ガソリンスタンドの高い天井の下はとても安全な避難場所になります。実際に阪神淡路大震災や新潟中越地震においても一件の火災事故は発生していないことがそれを証明しています。

また、ガソリンスタンドには、消防機器や防災資機材なども備わっており、大規模災害時に火災の延焼を食い止めたり、倒壊した家屋の下からの救出などにも役立ちます。最近では自動体外式除細動器 (Automated External Defibrillator) などを用意されていて、緊急時には大変頼りになる場所となっています。

第2問 答えは、**㊹すべてのフロアのボタンを押して、最初に停止した階で降りる**です。

地震感知器が揺れを感知すると、エレベーターは最寄り階に自動停止します。着床後、自動的にとびらが開くので、速やかに避難しましょう。

ただし、強い揺れが起きると、エレベーター塔内にある電気ケーブルやレールが損傷し、中に閉じ込められてしまうことがあります。この場合は、非常ベルを押して救助を待ちましょう。

すべての階のボタンを押して、最初に止まった階でエレベーターから降りましょう。

第3問 答えは、**㊺笛**です。

一刻も早く自分の存在を知らせる重要なアイテムです。阪神・淡路大震災では、多くの人が倒壊した建物の下敷きとなり、自力で脱出できない状況に陥ったといわれています。軽く吹いてもはっきり届き、大きな音がでる (3000Hz~5000Hz) 防災用ホイッスルは多くの人に気づいてもらえる可能性が高まります。腕につけることで暗闇の中でも、体が動かさせないない状況でも助けを呼びます。また、防犯ブザーの代わりにもなります。

第4問 答えは、**㊻強化液消火器を使う**です。

揚げ物中に目を離してしまうとその際に油の温度がどんどん上がって行って、最後、火が出ます！まず白い煙が出てきます！油の温度が 360℃を超えると火がつきます。「発火」です。消火方法として、水をかけることは絶対禁止です、フタを閉めて、酸素を遮断すれば火は消せます。(火傷に注意) 油の温度が下がってない状態で鍋のフタを取るとまた火がつきます。フタの上から濡れたタオルを数枚かける (固く絞る) と油の温度が下がります。(火災現場で使用する手袋が必要) 素手ではおすすめてできません。

業務用消火器はかなり早く消せますが、むせるかも？ 住宅用消火器でも一瞬で消せます。スプレータイプの消火器具の使用方法は押すだけ。使い方が簡単で充分消せます。

強化液消火器は液体の消火薬剤が噴出し、火を消します。水系なので、冷却効果と浸透性に優れています。冷却効果があるため、天ぷら油火災に有効です。また、粉末消火器に比べ消火剤が拡散しないため、視野が妨げられることなく、確実に火元をおさえることができます。

消火器の放射時間は、約 15 秒。放射距離は、3~6m です。黒いレバーの下を持って運びます。

第5問 答えは、**㊼×**です。

小学校や中学校で避難訓練を行った際、「第 1 に机の下に隠れる」と教わった人も多いでしょう。これは固い机の下に隠れることで、落下物などから頭を保護することを目的としています。

しかし、実際に揺れが大きい場合、家具や家電は大きく動き、時に身を隠し続けることができない場合や家具や家電自体が衝突してくるケースもあります。

そのため、なるべく物が無い廊下や玄関に移動するほうが避難に適している場合もあるといわれています。

第6問 答えは、**㊸玄関**です。

非常持出袋は、水道やガス等ライフラインが使えない状況で、数日間自足するために必要な物品を入れておきます。いつ発生してもすぐに持ち出せるように、自宅の避難経路になる玄関に置いておくことがベストです。玄関に置けない場合は、すぐに持って逃げられる場所にしましょう。デザイン性だけでなく、防水性の高いもの、無理なく長時間背負える工夫が施されているものが良く、できたら実際に背負って散歩してみましょう。

第7問 答えは、**㊸新聞紙**です。

上着が足らず寒い時、新聞紙を重ねて粘着テープで止めると上着代わりになります。また、足元に新聞紙を巻いたりお腹に巻いたりすると靴下や腹巻の代わりになり暖を取る事が可能です。



第8問 答えは、**㊸バケツ・ポリ袋・新聞紙**です。

被災した時に一番困るのはトイレです。そんな時、バケツ・ポリ袋・新聞紙さえあれば簡単に簡易トイレを作る事が出来ます。大きめのバケツにポリ袋を二重に重ねてかぶせ、細かく砕いた新聞紙を入れます。使用後はポリ袋を指定されている場所に捨てます。



第9問 答えは、**㊸ティッシュペーパー**です。

濡らして固く絞ったタオルやハンカチ、口腔ケア用のウェットティッシュなどを指に巻き、歯の表面をこすりましょう。特に歯と歯肉の境目は細菌が増えやすい場所なので、しっかり歯垢を取り除くようにこすります。口臭が気になる場合は舌も優しく拭ってください。

第10問 答えは、**㊸転げ回って消火**です。

「Stop Drop and Roll」服に火が付いた状態で走り出すと、風を受けてさらに火が大きくなります。そこで、止まれ！（ストップ）燃えているところを地面に押し付けるように倒れろ！（ドロップ）そして転がれ！（ロール）で火を消してください。これはもともとアメリカの子ども向けの防災教育として考えられたものです。

名古屋消防局などによると

- (1) 火が燃え広がるため、走り回るのは危険だ。火の勢いを大きくさせないために「ストップ」する。
- (2) 地面に倒れこみ、燃えているところを押し付ける。隙間をできる限りなくす。倒れることで、顔の前に火が上るのを防ぐ効果もあるという。
- (3) 倒れたまま転がり、消火する。この際、両手で顔を覆ってやけどを防ぐ。

このほか、料理の際に身につけるものには、火のつきにくい「防火品」を選ぶことも大切だ。

東京消防庁からの注意点

- ・調理中は、服のすそや袖が炎に接しないように注意する。
- ・マフラー、ストールなどは外す。
- ・ガスコンロの上や奥の物を取るときなど、こまめに火を消し、衣服に炎が燃え移らないよう注意する。
- ・鍋等の底から炎がはみ出さないよう、適切な火力に調整する。
- ・防火品のエプロン・アームカバーを使い、調理中の着衣着火を予防する。

